



2021年8月19日

各 位

会社名 北川精機株式会社
代表者名 代表取締役社長 内田雅敏
(コード:6327、東証 JASDAQ)
問合せ先 執行役員財務部長 西田圭司
(TEL:0847-40-1200)

中期経営計画の策定について

当社グループは、2022年6月期から2024年6月期までの3年間を対象期間とする中期経営計画を策定いたしました。その概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 前中期経営計画の振り返り

当社グループは、2018年8月に公表いたしました前中期経営計画「革新と創造への挑戦～独創性で輝き続けるKITAGAWAへ～」の下、全社を挙げて各種施策に取り組んでまいりました。

その前計画3年間の事業環境は、前半と後半とで大きく様変わりしました。

前半においては、プリント基板市場の牽引役であったスマートフォンの量的成長の鈍化が鮮明となる一方で、自動車のEV化・自動運転化を背景とした電動化比率の向上や、5Gの本格展開に向けた新技術・新材料の開発やインフラ投資への期待といった追い風がありました。しかし後半になると、予想外の「コロナ禍」によって、各消費市場の需給動向が一変し、先行きの読めない不透明な状況となりました。

このように激変した環境の中にあっても、基板製造過程の上流に位置する銅張積層板については、中長期的な観点から供給能力増強の動きが継続しており、この投資需要を着実に取り込みつつ、収益性向上のための施策を強力に進めた結果、計画最終年度である2021年6月期の連結経営成績は、売上高・営業利益の両項目において目標値を上回る結果となり、期末には配当を再開することいたしました。

また、経営資源を本業に集中して効率的な経営を行うため、子会社（建材機械事業）株式の譲渡や遊休不動産の処分なども実施しました。

《最終年度（2021年6月期）連結業績》

（単位：百万円）

	目 標 ^(※)	実 績	達成率
売 上 高	4,300	4,819	112.1%
営 業 利 益	380	541	142.4%

(※) 子会社（建材機械事業）の異動に伴う修正後の目標値（2019年8月19日公表）

2. 新中期経営計画の基本方針及び重点項目

長期化するコロナ禍が社会に不確実性をもたらす状況は現在も継続していますが、その中で労働・教育・医療の分野におけるリモート技術の活用など、従来なら何年も掛かったであろうデジタルトランスフォーメーションやI o T化の動きが急速に進みつつあり、プリント基板関連装置のメーカーである当社にとって息の長い成長機会も現出しています。

今後3年間において、スマートフォンは量的主役は譲らないものの、一時的な盛衰とは別に伸び代が限定的である傾向に変わりはないものと思われます。一方で、脱炭素化社会の実現やコロナ禍での生活変容などの社会的要請を背景に自動車の電動化・軽量化や社会におけるDXが進展し、それを支える5Gが世界的に普及することで膨大なプリント基板関連需要や新たな樹脂成形関連需要の創出が期待されます。特に、データセンターや通信基地局などのインフラ整備投資が当社に大きな影響を与えると考えられます。

このような環境の変化に合わせ、より機動的・能動的に市場の動きを捉えて収益機会を確実に獲得するとともに、将来に向けて持続可能な成長基盤を堅固なものとすることを目標として、新中期経営計画を策定いたしました。

持続的進化への挑戦 ～ 社会と共に成長する強いKITAGAWA ～

- (1) 既存事業での技術的深化と新規事業への経営資源集中による持続的成長の岩盤造り
 - ・ハイエンド基板向け高温・高精度プレス分野で圧倒的な世界シェアを確保する。
 - ・中長期的な視点で新たな成長市場（炭素繊維関連など）を開拓し、事業化の目処をつける。
- (2) 市場拡大に合わせた生産能力増強と収益性・競争力・製品／サービス品質向上の両立
 - ・効率的生産体制の構築により、収益性と競争力を高めつつ拡大需要を確実に取り込む。
 - ・顧客視点で性能と品質を更に高め、顧客満足度を向上させる。
- (3) 活力溢れる強い組織作りとそれを支えるデジタル化の推進
 - ・技能継承と若手育成に注力し、創造性・自主性と行動力をもって、いかなる環境変化にも柔軟に対応できる強い企業風土を醸成する。
 - ・デジタル技術の活用によって業務プロセスを変革し、より効率的な組織を構築する。

3. 新中期経営計画の数値目標（連結ベース）

（単位：百万円）

	2021年6月期 実績	2024年6月期 目標	増減率
売上高	4,819	5,300	+10.0%
営業利益	541	600	+10.9%

以上